

## 【研究発表③ 研究概要】

### 「知的障害のある児童生徒に対する効果的な指導の実践」

—児童生徒が主体的に授業に取り組むために必要な指導内容分析についての検討—

#### 1 はじめに

本研究では、各メンバーが抱える授業での問題状況を整理し、その結果より得られた3観点をもとに授業者の指導内容を見直すことで、「知的障害のある児童生徒に対する効果的な指導の実践」に繋がると仮説を立てた。本研究では、授業実践の分析をとおして、3観点による指導内容分析の妥当性と有効性について考察する。

#### 2 授業者の指導内容を分析するための3つの観点

##### ① 授業態度の形成

児童生徒の授業に対する参加態度（授業規律や学習習慣）の育成を目指した指導のこと。

##### ② 授業への興味・関心や意欲の向上

児童生徒が授業内容に積極的に興味・関心をもって意欲的に参加することを目指した指導のこと。

##### ③ 授業構成・内容の理解

活動手順や場所の理解ができたり、活動の内容を理解できたりするように、児童生徒の障害特性や発達段階、理解度に配慮した指導のこと。

#### 3 仮説

上記の3観点をもとに授業者の指導内容を見直すことで、「児童生徒が主体的に授業に取り組む」ようになるのではないかと。

#### 4 研究方法

第1期：問題状況の把握及び改善のための3観点の整理

第2期：3観点による授業の指導内容分析

第3期：3観点による授業改善

#### 5 3観点による授業の指導内容分析（第2期）

授業の指導内容を3観点で分析（分類・整理）することで、授業者の指導傾向を分析するとともに、授業結果から明らかになった課題と関連付けることで、改善方策を検討した。

その結果、『児童生徒が興味・関心をもてる教材・教具の工夫に重点を置いたため、②の観点が多かったが、①の観点が不十分であったため、「待てない」「しっかり聞けない（話・指示）」ことにより、授業として成立しにくかった』、『個の実態によって、3観点の課題の違いが明確になった。』など、授業の指導内容を分析することで、授業者の指導の偏りによる授業課題や、児童生徒の実態（課題）に応じた指導内容が明確になるなど、3観点による授業の指導内容分析が改善方策の明確化に繋がった。

#### 6 3観点による授業改善（第3期）

3観点により見直しながらか活用し、授業改善を進めることで、児童生徒が授業に主体的に取り組むことができたかどうかについて検証した。

その結果、「不足した観点を補うように、改善することで、主体的な姿が見られるようになった。」「児童の実態によって、重点を置く指導を明確にすることで、より主体的に活動できるようになった」など、3観点を踏まえた授業改善を行うことで、「児童生徒が主体的に授業に取り組む」ことに繋がった。

#### 7 本研究の成果

授業の指導内容を、3観点をもとに分析することで、授業者の児童生徒に対する指導傾向（指導の偏り）が明確になった。また、児童生徒の実態によって、必要な観点が異なることが明らかになった。

そして、3観点による分析結果を、授業の課題と関連づけることで、改善方策を具体的に検討することができ、授業改善の有効な手立てが得られた。

#### 8 今後の課題

今後、3観点の評価指標をより具体的にすること。また、児童生徒の学習評価の観点とも関連付けることなどで、より客観性のある授業の指導内容分析を検討することが必要である。